JO

第 30 号　2020.1.1 発行
発行者：株式会社協進印刷
編集者：JO 編集委員会

コミュニティで安心の未来を子供たちに残していきたい

Ｋｏｓｈａ33ライフデザインラボ　代表　船本由佳さん

大阪府箕面市出身。同志社大学法学部卒。
キャスター・ワークショップデザイナー
ＮＨＫキャスターとして広島・大阪・横浜放送局で勤務（02～12年）
２０１１年度ＮＨＫ地域キャスター表彰受賞。その後、二児の母親となり、子育てをしながら働き暮らす環境の模索を始める。２０１５年青山学院大学社会情報学部ワークショップデザイナー育成プログラムを修了。２０１７年より神奈川県子ども子育て会議委員、神奈川県住宅供給公社団地共生プロデューサー。２０１８年よりＫｏｓｈａ33ライフデザインラボ所長
https://minatokurasu.com/

江森：船本さんは元ＮＨＫのキャスターというキャリアをお持ちで、広島、大阪、横浜の放送局で活躍されてこられたわけですが、ＮＨＫというのは遠距離の転勤がそんなに頻繁にあるところなんですか。

船本：ＮＨＫにもいろいろな契約形態がありまして、私は番組ごとの１年契約のキャスターだったんです。私は大阪出身なのですが、元々の社会人としてのキャリアのスタートは岡山で、そこでは正社員のアナウンサーとして勤務していたのですが、もっと違う分野でも仕事がしてみたくなって、ちょうどそのとき広島のＮＨＫで報道番組のキャスターの募集があったので、お隣の広島に行ったということです。

江森：なるほど番組ごとの契約なんですね。横浜にはどうして？

船本：広島のあと地元で仕事がしたくなって大阪に戻ってきたのですが、大阪の番組が２年で終わってしまったんです。それでやむなく仕事を探していたところ、横浜のＮＨＫ－ＦＭで、新しいラジオ番組のキャスターを募集していて、フリートークができて経験者限定ということだったので応募したところ、採用していただいたので２００８年に横浜に来ました。

江森：それが今やこんな活動までされて、人脈もそれなりにないとできないでしょうし、横浜で生まれ育った人でもなかなかできることではないと思いますが。

船本：ありがたいことにたくさんの方に助けていただいて、今はこの「Ｋｏｓｈａ33ライフデザインラボ」の運営を任せていただいています。

江森：なんと、以前私を取材していただいたことがあるそうで、失礼ながら全然覚えていないのですが、それはいったいいつのことだったのでしょうか（笑）。

船本：たぶんＮＨＫをやめてすぐの頃だから２０１３年ぐらいだと思います。震災の後パートナーと結婚しまして、その後妊娠がわかって、今みたいに働き方改革なんて風が吹いていた時代ではありませんでしたし、番組が平日の午後６時から７時という時間帯だったこともあり、このまま続けていける仕事ではないかなと思い、ひと区切りつけることに決めました。

８月に子供が産まれて子育て大変だな～っていうループに入って鬱々としていたところ、横浜コミュニティデザイン・ラボの杉浦さんから「インタビューとかできるんじゃない？」と声をかけていただき、派遣された先が江森さんのところだったということです。

江森：そうなんだ～、杉浦さんですか。それがどうやってＫｏｓｈａ33につながっていくのでしょうか。

船本：子供が０歳のときって、母親はすごく力が出るというか、頭の中で人生の大改革が行われる時期だと思うんです。子育てって達成感を求めていると全然報われない世界なので、それまで大事にしてきた自分のやりがいとか達成感とかではなく、自分にとって何が大切かということを見直す必要に迫られるんですね。

私も、これからどうやって生きていこうみたいなことを考える中で、子育ての大変さを発信したり、大変さを解消するための何かができないかなと考え、２０１３年２月に「まま力（りょく）の会」という子育て当事者が子育ての悩みを解決するための任意団体を立ち上げました。立ち上げたというより地区センターの呼びかけに乗ったという方が正確かもしれませんが。

江森：「まま力の会」ではどんな活動をしてきたのですか。

「まま力の会」に寄贈されたミシン

船本：同じ子育て中のママたちが集まって自分たちが欲していることをイベントにすれば、多くのママたちが参加してくれるんじゃないかということで、いろいろ意見を出し合って何ができるか検討し、できることからやってきたという感じなのですが、その中に「ミシンの活動」というのがありました。

子供が保育園や幼稚園に入ると、入園・入学グッズというのを手作りしなければならない時期が来るんですね。ウチの幼稚園ではランチョンマットはこのサイズですみたいなことが決められていて、市販のものでは対応できず、どうしても手作りせざるを得ないということが先輩ママからの情報で少しずつわかってくるわけです。でも家にミシンなんてないしスキルもない、ならばみんなで集まって作り合いっこしようという活動が、まず始まりました。

江森：手作りバッグの問題は昔から言われていますよね。みんなで集まって作ろうというのは良いアイデアですね。

船本：得意な人が先生役も兼ねてミシンを持って来てくれるのですが、毎回ミシンを家から持って来るのは重くて大変でした。また参加者も増えて来て台数も足りなくなってきたことから、ご近所で家に眠っているミシンがあったら寄付してもらったらどうかということになって呼びかけてみたところ、9台も集まって、その中の1台がそこにある古いミシンなのですが、それぞれのミシンに思い出や思い入れがあって、メッセージ付きのミシンがたくさん寄せられました。それを「街のミシン」として活用させていただくことにしたのです。

江森：それは素敵な活動ですね。ミシンを媒介にすれば子育てママだけでなく、いろいろな人が参加できる活動になりますね。

船本：そうなんです。子供を連れているとどうしても行けるところが限られて来て、交友関係も限られて来るので、ミシンの活動はとてもありがたかったですね。ところが、ミシンを預けていたさくらワークスが2017年に終了することになって、ミシンと一緒に出ていかなければいけなくなってしまいました。次の保管場所をあちこち探していたところ、神奈川県住宅供給公社の理事長さんから、公社1階の空きスペースをリニューアルするにあたり何か提案してくださいという依頼をいただいてプレゼンテーションしました。

「子育て当事者だけでなく、さまざまな人たちが集まる暮らしの実験室にします」というコンセプトで、コミュニティが失われていると言われる現代にあって、コミュニティの大切さを伝えていく活動ができればと、簡単に言えばそのようなご提案をしたところ、それならいいですよということになり、めでたくミシンを置いていただけるようになったということです。

江森：公社の理事長さんは素晴らしい感性の持ち主ですね。「暮らしの実験」というのは具体的には何をするのですか。

船本：子育てを経験して社会的弱者側になったことで、世の中には制限を受けて暮らしている人がこんなに多いんだ、やりたいことができないでいる人がたくさんいるんだということに気づいたんです。でもいつか自分のやりたいことを始めたり、自分らしさを取り戻したりできる、前向きな気持ちになれる場所が必要なんじゃないかと思って、この場所を「ライフデザインラボ」という名前にしました。自分の人生＝ライフをデザインしたいと思う人が、何かを実験することができる場所であり、次の一歩を踏み出すことに迷っている人たちが集って研鑽できる場所だったらいいなあという思いでいます。

江森：公社さんからは具体的な成果を求められているのですか。

船本：特に決まったものがあるわけではないのですが、ここで私たちが学んだことを神奈川県住宅供給公社の1万3千戸の住宅にお住いの方々にフィードバックして、団地で実践できればいいなと思っています。

江森：それはいいですね。とても可能性を感じます。具体的な成果を残したいですね。

船本：そうですね、何か数値で表せるものも必要と思いますが、来場者が何人になったとかそういうマスな指標ではなくて、大事なことは一人の行動変容を促すことができたかどうかだと思うんですね。たくさんの人が来ても、来ては去り、来ては去りではコミュニティが育ちません。主体性を持ったおもしろい大人が街にたくさん増えれば増えるほど街は楽しくなると思いますし、お金ではない価値観でコトが動くというのはそういうことではないかと思います。でもそれは目に見えにくいものなので、何らかの評価軸は自分たちで考えていかないといけないと思っています。

江森：私もCSRの取り組みの中で目に見えないものをどうやって測定・評価するか日々試行錯誤していますが、これからの時代はそのノウハウの勝負なのかなとも思っています。長期的なビジョンは先ほどお聞きしましたが、もう少し近いところでいうとどんなことをしていきたいですか。

船本：そんなに確固たるものはないのですが（笑）、コミュニティの評価基準みたいなものができたらいいなと思っています。そういうものがあると、コミュニティを作っていく人、良くしていこうと思っている人のわかりやすい目標になると思うんですね。私自身コミュニティに助けられて生きていますので、コミュニティがあって安心できる未来を作っていきたいです。

全印工連CSRサミット2020開催決定！

全日本印刷工業組合連合会（全印工連）は、同会が推進するCSRに関するシンポジウム「全印工連CSRサミット2020」を、2020年3月10日横浜市中区の横浜市開港記念会館で開催する。

全印工連では、横浜市大CSRセンターの協力を得て、CSRマネジメントシステムに関する独自の規格要求事項を策定し、2013年より業界団体としては日本初の本格的CSR認定制度を運用している。今回のサミットは同会が掲げる「経営戦略としてのCSR」の有効性を検証するとともに、企業が社会課題にアプローチしてその解決に取り組もうとしたときに、企業内においてイノベーションが加速するのではないかとの仮説に基づき、「企業と社会の接面で加速するイノベーション」と題して、CSRの経営的効果について考察する。

当日は午前10時からプレセミナーとして用意されるSDGs関連のセミナーからスタート。午後からは講堂において、全印工連CSR認定企業の中から選ばれる「全印工連CSR大賞」の表彰式のあと、PHP総研主席研究員・立教大学大学院特任教授で全印工連CSR認定委員長も務める亀井善太郎氏による基調講演。続いて横浜市立大学教授影山摩子弥氏をはじめ、企業経営者などによる障害者雇用・ダイバーシティをテーマにしたパネルディスカッション。環境経営、SR調達をテーマにした分科会と、どれもCSR経営には欠かせない内容のセッションが目白押し。最後は会場を変えて懇親会を兼ねたクロージングセッションで締めくくられる。

登録料は一般3千円。全印工連会員だけでなく一般参加も可能。また学生の参加は無料となっている。

問い合わせは、全印工連事務局（045－3552－4571）まで。

3R CLUB

REDUCE×REUSE×RECYCLE

3Rはご存知ですか？そう、リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）です！身の回りにある不要だけどそのまま捨てるのはもったいない、何かの代用にはならないかな？を元パタンナーMと元アパレル販売員Mの「WM（ダブルエム）」で、ちょっと役に立つ（…かもしれない）ものをご紹介するという企画です。時にはまったく役に立たないものもあるかもしれませんが、そこはご愛嬌！ということで、どうぞ温かい目でお付き合いください。

リユースパッチワークのテーブルクロス

久しぶりの3R CLUBです。

今回は、従業員から集めた古布の中から資源リサイクルできないほど傷んでいる衣類を使って、パッチワークのテーブルクロスをつくりました。

通常パッチワークというと、残布を使い布の大きさが揃っていたりするもの。そして、クッションなどの面積が狭いものが多いでよね。今回はつなぎやYシャツ、ワンピースなどの使える部分だけをつなぎ合わせて作りました。どう組み合わせれば柄や大きさがうまくつながるか、まさにテトリス。さらにテーブルクロスという大きさが難しさに拍車をかけることに。おしゃれかどうかはさておき、なんとか組み合わせて完成。

つなぎ合わせただけじゃ物足りない！元パタンナーの血が騒ぎ、あまった布でさらに〝ヨーヨーキルト〟を作って、フチの装飾をしてかわいさをプラス。社内イベントで使用するも良し、ちょっと置いてある大きな段ボールの目隠しとしてかけておくも良し。手作り感がその空間を温かい雰囲気にしてくれます。

作るのはとっても大変ですのでオススメはしませんが（笑）、既製品ではないオンリーワンの温かさに触れてみるのはいいものだなと思います。

古くなった作業着や制服を

適当な大きさにカットして

きれいに並べて縫い合わせる

丸い布の端を縫って絞ると

ヨーヨーキルトの出来上がり

完成！

大口自慢

十字屋家電

大口の魅力を紹介する『大口自慢』。今回ご紹介するのは、十字屋家電さんです。

お話を伺ったのは代表取締役の川口大輔さん。鹿児島出身で、ご実家はなんとまぐろ漁師！川口さんは漁師の下積み経験後、音楽の道を目指し上京。現在の奥様と出会い結婚、そして奥様のご実家の電気屋さんを継ぐ決心をされたそうです。

バンドは現在も続けていて、おおぐち通商店街の夏夜店では毎年お店の前に会場を設置して、川口さんプロデュースのライブを開催するなど、地元の活性化にも貢献しています。

代表取締役の川口大輔さん

創業50周年を機に店内をリニューアル。店内の休憩スペースは地域の皆さんが趣味で集まる場など自由に使ってほしいと考えているとか。お子さんの保育園の保護者会長も務めていて「保護者会議もお店でやってるんです、保育園は狭くてなかなか場所が取れないですからね」と積極的にお店のスペースを開放されています。

仕事柄、お宅に訪問することが多いので、お客様との対話を大切にと心がけていて、電気のことだけでなく困ったことがあったら何でも相談してもらえる存在になりたいと話してくれました。

「大口全体をよりよい街にしたいんです」と笑顔で話す、頼れる街の電気屋さんです。

十字屋家電株式会社
横浜市神奈川区大口通17－3
電話番号：045（433）1821
営業時間：午前10時～午後7時
定休日：日曜日・第3木曜日

Kyoshin TODAY

ありがトゥナイト2019開催

去る11月15日（金）、みなとみらいBUKATSUDOにてCSR報告会「ありがトゥナイト2019」を開催しました。今年は、地域の課題解決プロジェクトで協働している六角橋ケアプラザ、障がいのある方が働いているNPO法人ぷかぷか、大阪にあるB型作業所で職場限定スイーツを製造販売しているマームニールの3団体に出展していただきました。弊社のイベントを通して、たくさんの方々の新しい出会いを作ることができました。

ブラックアウトを体験しました

毎月恒例のありがとうの日、11月は「ブラックアウトを体験しよう」でした。

これまで、地震の際の避難ルールや火災の時の消火方法など様々な防災ルールを決めてきましたが、停電時のルールは決めていませんでした。そこで、風水害の被害によって停電が発生したという想定で、就業時間後にブレーカーを落としてブラックアウトを体験。実際真っ暗な中で行動してみると、頭で考えているだけではわからない様々な発見があり、改善点が見えてきました。今回明らかになった課題は、BCP委員会に引き継ぎ、ルール策定後、社内に浸透させていく予定です。

環境MS内部監査を外部委託で実施

10月23日、弊社環境保護推進会議で、初めての外部委託による内部監査を実施しました。

昨年まではマネジメントシステムに対する社員の理解を深める目的もあり、監査員を社員が持ち回りで担当していましたが、ときには十分なスキルを持った方に監査していただくことも必要と考え、外部の専門機関に監査を依頼しました。

是正の指摘だけでなく、形骸化しない仕組みづくりや業務の簡略化など、目から鱗のご指摘をいただき、早速運用しています。

脱プラスチックへの一歩

世界的に脱プラスチックの気運が高まる中、弊社でも具体的な行動をと考えJOの郵送に使用していたOPP袋を廃止し、専用の紙製封筒を使用することにしました。ありがトゥナイト2019で実施した「JOギャラリーアワード」で、昨年1年間に発行した4作品の中から1位に選ばれた作品を今年のJO用封筒として使用しています。

ブログもチェック！ https://kyoshin-blog.com/

JO（ジェイ・オー）2020年1月号（第30号）
発行者：株式会社協進印刷
横浜市神奈川区大口仲町108番地
TEL：045（431）6611
FAX：050（3730）6273
URL：http://www.kyoshin-print.co.jp

YOKOHAMA PREMIUM 地域貢献企業
CSR
GREEN PRINTING JFPI F-810042 本工場は、環境に配慮したGP認定工場です。
GOLD+ 環境保護印刷

協進印刷はクリエイターを応援しています！裏面のギャラリーで毎号作品を紹介。　今回は…江森萌々子 さんの作品です。